

## 「いせはら地ミルク」の食育授業

相模女子大学小学部及び中学部から伊勢原産牛乳プロジェクトチーム（以下、PTとします）が依頼を受け、令和2年1月14日、午前は小学2年生79名、午後は中学2年生71名を対象に食育授業を行いました。学校からの依頼方針に沿って、小学2年生には動物の命の大切さ、食材の大切さを考える授業を、中学2年生にはさらに「いせはら地ミルク」のより具体的な商品開発ストーリーを通して「ものづくり」の大変さ、商品の価値を理解してもらう授業を行いました。PT構成員として当所は、学校と酪農家の連絡調整を行い、授業の内容や構成を検討する際の意見の取りまとめや食育教材の準備等を支援しました。

### 【小学2年生への授業】

学年全体での授業を2コマ行いました。1コマ目では、児童に生後3か月の子牛とのふれあいを通じて動物の「温もり」や「かわいさ」を体感してもらうとともに、疑似搾乳体験装置「ミルタン」を使った搾乳体験で牛乳を搾る大変さを体感してもらいました。また、児童に酪農家との質疑応答を通じて酪農業の大変さや魅力について学んでももらいました。

2コマ目では、PTが相模女子大学と協力して作成した絵本「いせはら地ミルク物語〜



子牛とふれあい、大きさや温かさ、柔らかい毛並みに児童たちは驚いていました



疑似搾乳体験装置「ミルタン」で真剣に搾乳体験する児童たち

誕生〜」を酪農家が児童に読み聞かせ、商品開発にいろいろな人が関わって協力したことを学んでももらいました。最後に児童と先生に「いせはら地ミルク」を飲んでもらうと、「おいしい」「甘い」「クリーミー」との感想が聞かれ、牛乳の蓋やラベルを大切に持ち帰る子もいました。

### 【中学2年生への授業】

やはり学年全体での授業を2コマ行いました。基本的な授業の構成は小学2年生と同様ですが、より専門的な内容に掘り下げて説明しました。牛の体の秘密「人間が利用できない牧草を食べて良質なたんぱく質（牛乳）を提供してくれる」ことや牛の繁殖サイクルについて酪農家が説明するのを生徒は熱心に聞いていました。また、「いせはら地ミルク」の商品開発のストーリーを当所がスライドで説明し、酪農家が苦労話をする中で「いせはら地ミルク」試飲の際は、生徒たちがより大切に飲む姿が見られました。



商品開発の苦労話を熱く語る酪農家の荒井さん（PTリーダー）



酪農家のお仕事、牛の繁殖や体の仕組みを説明する酪農家の石井さん

当所では、食育授業で学んだこと、楽しかったことが児童の家族や友達に伝わり、地域や県内の酪農への理解につながるよう引き続き支援してまいります。

#### 備考

PTは伊勢原の牛乳をみなさんに飲んでもらいたいという理念のもと、様々な活動を行っています。

当日の食育授業は、活動の一環としてPT6名（いせはら地ミルク生産酪農家2名、伊勢原市役所1名、湘南地域県政総合センター1名、当所2名）、相模女子大学関係者9名で実施しました。